

CLAIR トピックス

——最近のクレアの動きを短くまとめて紹介します



パリ事務所

フランス JET 30 周年記念講演会

「わが創作の源：松本零士先生のフランス・日本」開催！！

2018 年は日仏友好 160 年にあたるとともに、フランスにおける JET プログラム事業が 30 周年を迎える年です。JETAA フランス支部は 6 月 7 日に、パリ日本文化会館（MCJP）において、今年 80 歳になられた漫画家の松本零士先生を迎え、記念講演会（在仏日本国大使館・クレアパリ事務所後援）を開催しました。

松本先生は日本を代表する SF 漫画家として知られており、代表作には『銀河鉄道 999』、『宇宙戦艦ヤマト』、『宇宙海賊キャプテンハーロック』などがあります。フランスでも世代を超えて絶大な人気を誇り、フランスの若者が JET を志す契機の一つになるなど、大きな影響力があります。

講演会では、木寺昌人在仏日本国大使の挨拶に続き、JET プログラム OB であるフロラン・ゴルジュ氏をモデレーターに、フランス軍人の指導を受けた陸軍航空隊の父親の影響、自身の作品がフランス映画『わが青春のマリアヌ』の影響を受けたことなど、フランスと深く関わる松本先生の創作の源について語っていただきました。また、フランスで一番有名な『宇宙海賊キャプテンハーロック』の主人公「ハーロック」を描き、その様子に来場者から熱い視線が注がれていました。チケットの予約開始日に満席となる盛況ぶり、当日は約 300 人が来場し、講演会終了の際には MCJP の講演では初めてという満場総立ちのスタンディングオベーションが贈られました。

今回モデレーターを務めたフロラン・ゴルジュ氏はかつて JET プログラムで新潟市の CIR（国際交流員）（2001～2004 年）として活躍し、帰国後はゲーム関係の出版社を設立し、現在もアニメの TV 局のプロデューサーなどを勤めています。

JETAA フランス支部は、日本文化を紹介するイベントを毎年企画しており、JET プログラム終了後も日仏交流の懸け橋として活動しています。クレアパリ事務所は、今後も JETAA と連携をしながらフランスでの JET プログラム事業の発展を支援してまいります。



講演をするフロラン・ゴルジュ氏（左）と松本零士先生（中央）
描画パフォーマンスで「ハーロック」を描く松本先生（右）



シドニー事務所

大和高田市とリズモー市の姉妹都市交流 55 周年！

リズモー市で記念レセプション開催！

遡ること 55 年。1963 年 8 月 7 日に奈良県大和高田市とニューサウスウェールズ州リズモー市が姉妹都市を締結しました。これは、日豪間における初めての姉妹都市提携であり、現在では 100 を超える自治体が豪州の自治体との間で姉妹都市関係を結んでいます。

6 月 22 日、本年 55 周年を迎える上記姉妹都市交流を記念し、リズモー市で記念レセプションが開催され、大和高田市から吉田誠克市長、泉尾安廣市議会議長ら市関係者および大和高田・リズモー都市友好協会関係者が参加しました。リズモー市からもアイザック・スミス市長や姉妹都市提携 50 周年当時の市長であるジェニー・ダウエル前市長ら約 30 名の職員、関係者が出席しました。

吉田市長が、2023 年に 60 周年を迎える際には大和高田市においてリズモー市関係者をお迎えしたいと述べ、続いてスミス市長から、訪問団のリズモー市訪問を歓迎すること、これから大和高田市からの交流学生を受け入れる時期でありとても楽しみであること、また 2023 年には 60 周年式典参加のため大和高田市を訪問したいとお話がありました。

翌 23 日は年に 1 度当地で開催されているランタンパレードにクレアシドニー事務所も参加しました。大和高田市訪問団の来訪に合わせ、大和高田市のマスコットキャラクターである「みくちゃん」のランタンが披露され、過去に交流学生として大和高田市を訪問した青年らも一緒になり、関係者がパレードを行いました。沿道には三重にも四重にもなるほど多くの人々が詰めかけ、日本から参加している大和高田市関係者に対しては、一層大きな声援が送られました。日本語で挨拶をくださる市民の方も多く、当地において両市ひいては日豪の良好な関係が根付いていることを実感できました。

今後も両市の密度の濃い姉妹都市交流が末永く続いていくことが期待されます。



記念品を交換し、握手する吉田市長（左）とスミス市長（右）



大和高田市マスコットキャラクター「みくちゃん」の前で記念撮影する訪問団



ランタンパレードに参加する大和高田市訪問団



北京事務所

北京市の旅行博覧会に出展しました

6月15日から17日まで北京市内で行われた「北京国際旅遊博覧会（BITE）2018」に、過去最多となる19の自治体と共同で出展しました。この旅行博は中国でも最大規模を誇り、今年も開催期間中に旅行業界関係者約3万人、一般来場者約10万人を集め、大きな賑わいをみせました。

クリアブースは隣接する日本政府観光局（JNTO）と一体で「和」の装飾を施し、日本らしさを演出。用意したパンフレットやPRグッズは最終日を待たずに配布し終えた自治体も多く、比較的サイズの小さいパンフレットが人気だったようです。

来場者はシニア層を中心に若い世代まで幅広く、共同出展した自治体からも「受ける質問の内容がかなり細くなった」「昨年よりも手応えを感じる。また来年も参加したい」などの感想が寄せられるなど、北京での訪日旅行への関心がさらに高まっていると感じました。

※共同出展自治体：宮城県、福島県、茨城県、群馬県、神奈川県、チーム昇龍道（富山県、石川県、福井県、長野県、岐阜県、静岡県、愛知県）、京都府、徳島県、長崎県、熊本県、横浜市、大阪市、熊本市



クリアの出展ブース



ブース前の人だかり



ロンドン事務所

ドイツ「日本デー」で地域の魅力をPR!

5月26日、ドイツ・デュッセルドルフ市で欧州最大級の日本文化発信イベント「日本デー」が開催されました。クリアロンドン事務所ではブース出展し、全国の自治体から提供された観光パンフレットなどを配布したほか、ポスターを展示し、日本全国の地域の魅力をPRしました。来場者はパンフレットを手に取り、日本の美しい自然やご当地グルメの写真に見入っていました。実際に日本への旅行を計画している来場者も多く、アクセスなどの具体的な質問が相次ぎました。また、サイクリングコースのポスターを展示したところ、関心を持つ来場者が多く、健康志向のドイツ人の心を掴んでいる様子でした。

主催者の発表によると、当日は約60万人が来場し、会場となったライン河岸は日本のアニメのコスプレをした来場者などで埋め尽くされました。太鼓や書道のパフォーマンス、柔道などの日本のスポーツ体験も行われ、来場者は日本文化への理解を深めていました。夜は日本式の花火が打ち上げられ、大きな音とともに大輪の花火が開く度に、来場者は歓声を上げて楽しんでいました。



来場者で賑わうライン河岸の会場



当事務所ブースでパンフレットに見入る来場者



シンガポール事務所

インドネシアの「第10回オールジャパン協力会議」に参加

5月25日、インドネシアのジャカルタで在インドネシア日本国大使館が主催する「第10回オールジャパン協力会議」が開催され、当国の政治・経済状況に関する認識共有、日本・インドネシアの関係全般（政治・経済・文化交流・領事関係・人的往来など）のレビューを通して、更なる関係強化のために何をすべきかについての意見交換が行われました。在外公館長のほか各地の日本人会代表や在インドネシアの日本政府機関の代表によるプレゼンテーションに加え、国交樹立60周年記念事業、地方から見た両国関係の現状と問題点についての情報共有、来年4月に控えた正副大統領選挙に向けたインドネシア国内の政治状況についても議題となりました。政治の安定化、積極的なインフラ開発により、国民のジョコウィ政権に対する満足度は70%を超えている一方で、汚職、税、規制などのビジネス環境問題に関しては依然として課題が残っているようです。

世界第4位の約2億6千万人の人口を持ち、総人口に占める労働人口（15～64歳）の割合がきわめて高い人口ボーナス期にあるインドネシアでは、各自治体の首長による積極的なトップセールスが行われるなど、観光や経済面での交流が進んでいます。



ソウル事務所

韓国の大学生を対象に日本の“地方”の魅力を PR

5月15日、29日および6月5日の3回にわたって、仁荷大学（仁川広域市）で日本語文化学科の学生約35名を対象にクリアソウル職員が講義を行い、各回で京都府、鹿児島県、鳥取県の魅力を発信しました。

日本の東西比較や地方で異なる「県民性」、韓国との交流に関する独自の取り組みなど、毎回違った角度から日本の“地方”について切り込み、観光や特産品にとどまらず、各府県ならではの“良さ”を幅広くPRしました。聴講した学生からは「鹿児島の焼酎と韓国の焼酎の違いは？」、「ねぎ焼きと大阪のお好み焼きと広島のお好み焼き、どれが本物？」、「トリピー（鳥取県のPRキャラクター）も歳を取るの？」、「方言についても聞きたい！」など、ユニークなものから意表を突いたものまでさまざまな質問が寄せられ、日本の地方と、そこに根づく文化や言語に対してまでも高い関心が持たれている様子が窺えました。

このような取り組みをきっかけに、より多くの方に日本に興味を持っていただき、訪問客の増加につながることを期待されます。



法被姿で講義するクリアソウル職員



学生から寄せられる質問への応答



ニューヨーク事務所

全米市長会年次総会開催－広島市長が参加

6月8日から11日まで、米国ボストン市で第86回全米市長会年次総会が開催されました。インフラ整備、住民参画、スマートシティの取り組みを始めとするITの活用のほか、環境保護や官民パートナーシップの活用など市長の関心の高いテーマについてのスピーチや討議が行われました。また最終日には、連邦政府・議会に対する提言に係る決議が採択されました。

今回の総会には、広島市の松井一貫市長が参加。10日の全体会で登壇し、世界恒久平和の実現に向け都市・市民レベルの活動を広げるため、自身が会長を務める平和首長会議への加盟と協力を呼び掛けました。



折鶴を贈呈する松井市長
(右から2番目)

NYでJET新規参加者向けオリエンテーションを実施

6月23日、在ニューヨーク日本国総領事館と当事務所が共催で、今夏から日本の各自治体に配属されるJETプログラム新規参加者を対象としたオリエンテーションを実施しました。今回はニューヨークから出発する62人が参加。JETAA ニューヨーク支部のメンバーが自身の参加経験を元に、ALTや国際交流員の業務の概要や、日本独特のマナーに関する講義を行いました。また、テーマ別のグループディスカッションも行われ、地域との関わり方や日本での生活の立ち上げといったテーマが人気を集めていました。



経済交流課

プロモーションアドバイザー事業の紹介

海外プロモーションについて専門知識を有する「プロモーションアドバイザー」を希望する自治体に派遣します（1事業につき最大2回まで、派遣に係る経費をクリアが負担）。自治体の現場でのプロモーションの企画段階（市場調査、事業戦略）において、相談対応や専門的な助言・情報提供を行っています。

派遣申請は随時受け付けています。お気軽にお問い合わせください。

■プロモーションアドバイザーの専門および得意分野

- 海外販路開拓
 - ・地場産品の輸出支援
 - ・地元企業の海外進出支援 等
- インバウンド観光支援
 - ・訪日外国人向けWEBサイト運営やフリーマガジン発行による海外プロモーション
 - ・外国人向けメディアコンテンツの作成や情報発信
 - ・イスラム教徒向け宿泊サイト運営、ハラール対応コンサ

- ・ルディング 等
- 文化発信と伝統技術活用
 - ・自治体を持つ文化や伝統技術のブランディング・事業プロデュース
 - ・和食や伝統芸能による海外プロモーション 等



旅館でアドバイザーと意見交換している様子（熊本市）

■プロモーションアドバイザー事業について詳しくはHPをご覧ください。

<http://www.clair.or.jp/j/economy/3/page-9.html>

■お問い合わせ 経済交流課

Tel : 03-5213-1726 Mail : keishin@clair.or.jp

交流親善課

海外自治体幹部交流協力セミナー（GAOK-CLAIR 共同研修）を実施しました！

各海外事務所管内の自治体幹部職員などを日本に招へいし、地方自治の現場の視察や行政施策に関する意見交換などを行う海外自治体幹部交流協力セミナーですが、今年度からソウル事務所管内については、大韓民国市道知事協議会（GAOK）と共催することとなりました。

韓国全土から自治体職員 11 名を迎え、5 月 23 日から 30 日までの期間、東京都と岩手県陸前高田市で、「災害対策と復興施策～日本の地方行政施策の特別教育～」というテーマのもと、セミナーを開催しました。

近年、韓国においても、地震をはじめとする災害が連続して発生していることから、参加者は日本における災害対策などに関する講義、防災に関する施設の体験学習、河川の増水を緩和するための施設である首都圏外郭放水路や陸前高田市における震災遺構の視察研修に、熱心に取り組まれました。

参加者からは、日本の防災対策について学ぶことを通じ、韓国における防災システムの構築について深く考えることができた、との意見があり、また、質疑応答の際には、時間オーバーになるまで積極的に質問が出るなど、実り多い研修となりました。

今年度の海外自治体幹部交流協力セミナーについては、本セミナーを皮切りに、各海外事務所 6 か所管内の自治体幹部を招へいして実施予定です！



陸前高田市にて、建設中の防潮堤の上で記念撮影



埼玉県防災学習センターにて、地震の震度体験を行う参加者たち

多文化共生課

つながりから協働へ

「第 3 回災害時の連携を考える全国フォーラム」が開催されました

6 月 12 日・13 日、国際ファッションセンターKFC ホールにおいて、特定非営利活動法人全国災害ボランティア支援団体ネットワークの主催により「第 3 回災害時の連携を考える全国フォーラム」が開催され、全国の自治体、社会福祉協議会、NPO 法人、企業などから、約 300 名が参加しました。

フォーラムでは、災害対応の連携と新たな動きをテーマに、内閣府、全国社会福祉協議会、日本 NPO センターなどの代表者によるパネルディスカッションが行われ、災害前からの圏域での地域ネットワークの構築、被災地外からの応援に対する受援力の向上、より多様な民間支援組織の参加の必要性など、官民双方で行われている取り組みの最新事例について意見交換がなされました。

さらに、2 日間を通して、広域大規模災害に備えた多様な主体間の連携、都道府県域の支援ネットワークや多様な支援者とのつながりなど、コーディネーションや連携などをテーマにした 11 の分科会が行われ、各分野での対応能力の向上を高めることについて、活発な議論が交わされました。

また、2 日目の全体セッションの中で、クリア多文化共生課より会場全体に向けて、多文化共生に取り組む自治体などに対するクリアの支援について周知・広報する時間が設けられるなど、クリアの取り組みを全国のさまざまな団体に PR する良い機会となりました。

行政・社会福祉協議会・NPO や企業など多様な支援団体や組織の「三者連携」の必要性和重要性を多くの参加者と共有することができた、とても有意義なフォーラムでした。



1 日目パネルディスカッションの様子



2 日目全体セッションの様子

JET プログラム事業部

SEA の指導力向上研修への助成金交付があります。

クリアでは、スポーツ国際交流員（SEA）が一層効果的なスポーツ指導などをするために必要な知識・指導技術などを習得させることを目的とした研修に対し、任用団体に助成金を交付しています。研修を行うことで、SEA の指導能力が向上することだけでなく、ほかの競技関係者との新たなネットワークが構築されることも期待できます。

助成金交付の詳細は、下記にお問い合わせください。

■お問い合わせ 研修・カウンセリング課
Tel : 03-5213-1728